

西尾東高校33回生受験体験記

(抜粋・一部編集)

「受験体験記」とは東高卒業生が受験を経験して感じたこと、後輩へ伝えたいことをまとめたものです。2011年3月に東高を卒業した33回生からのメッセージの中にある「成功へのキーワード」を見つけ出し、志望校の合格へつなげていくことを期待しています。

1 3年間（または1年間）努力したこと・気をつけたこと（学習・生活など）

○学習に「何のためにやっているのか」「どんな力をつけるためにやっているのか」とかしっかり意味を理解して臨んだ。適当にやっていたら力はつかない。部活と一緒にです。

○「この科目だけは誰にも負けない」という科目を作った。何かと支えになった。

○3年生から学習生活記録を毎日つけることで、いかに時間を無駄使いしてるのか気付くことができた。例えば帰宅後から夕食までの時間など。記録をつけることで、学習中心の生活リズムをつくることができた。

○汚い教室では頑張れません。教室をきれいにするだけでなく「きれいにしよう」と思う気持ちが大切。

○早寝早起きを心がけた。5時に起きて2時間勉強してから学校へ行き23時には寝た。はじめは、早起きの努力をして、そこから睡眠時間や勉強時間を調節していったら、いつの間にか生活のリズムができていました。

2 学習方法について（授業や補習の活用、苦手科目の克服方法など）

○本気でない者は自分が頑張ったことを主張し、本気の者は頑張っていない部分を反省する。

○多数のテキストをやるより、一つのテキストを何度もやるほうがよい。学校で使っていた教材だけで、全く不安はなかった。

○単語を楽しく覚える！！ポケットサイズとB5サイズのノートとポストイットを用意する。ポストイットに覚えたいことを書いて、ポケットサイズのノートに貼って覚える。1日1回はテストして確認する。覚えたらB5サイズのノートに貼り替える。捨ててしまわず記録として残る。ペタペタ貼り替えるのが楽しい。確実に達成感があって楽しくてオススメ。

○学習時間が目的ではない。やるべきことをしっかりやっていたら、時間は自然と増えるもの。時間は手段であり目的ではない。

○私は数学が好きだったので、勉強に手がつかないときは、まず数学をやった。集中してきたら苦手科目をやるようにした。

○同じ問題を繰り返しやる。私は同じ本を4冊買ってやりました。「10ある曖昧な知識は0に等しい。」ひとつひとつ確実にすることが大切です。

○教科書を綺麗なままにするな。模試の解説の隅っこに書いてあった「へえ～」と思ったこと、授業の時に先生が話してくれたこと、何でも書き込んで自分だけの教科書にする。

3 模試について（受験前の工夫や、受験後の問題のやり直し・成績個票の活用など）

○最初の頃は結果の悪さにただ落ち込んでいた。でも、それだけじゃ進歩がないから、「どうすべきなのか」を結果から見つけるようにした。次の模試までにやるべき事を決めて、それに集中して勉強した。模試のための勉強がいつしか受験のための勉強になっていった。

○良い結果に安心すると必ず次は結果が悪くなった。安心は禁物。

○模試の前には・日本史や生物など即効性の高いものを範囲を限定してやった。担任の先生によると、これを「一点豪華主義」と言うらしい。これを繰り返していくと点が線となり力となるのです。

○模試は大切。何回も受けてると、明らかにこの分野出来てないとか分かってくるし、受験生全体の自分の位置も見えてくるので自己分析につながる。ただ単に、ABCDEを見て騒ぐだけのオマツリにするな！！

○現状を知る良い機会。今はまだ勉強始めてないから大丈夫。とか、自分を肯定するような言い訳するようなひとは絶対に伸びない。だから、その逆で、現実を受け止めよう。

4 担任との面接について

○先生を信じる事。自分だけでは受験の知識が少なすぎて、ベストな選択ができません。先生と一緒に進路を考えていけば間違いありません。

○単なる応援だけでなく、何をすべきか、何をどのくらい伸ばすべきなのか、何を基準に大学を考えるべきかなどの具体的なアドバイスをしてくれた。自分以上に自分のことを知っていると感じた。

○厳しいと言われるのは、先生が厳しいのではなく自分が甘えているということ。この1年でそれに気づけただけでも、私は成長したんだと思います。

○面接だけでなくSTとかでしてくれる話の全てにすさまじい説得力があった。反抗するどころか完全に納得させられた。

○何度泣いたことか。でも先生の前で泣けるということは、それだけ先生を信頼していたんだと思う。

○進路の知識が半端なくすごかった。適当に考えていた自分が恥ずかしくなった。自分の進路なのに。

5 後輩へのメッセージ

○2年の冬、集会で先生が「受験生になる覚悟」について話してくれました。このとき、私の心はとても奮い立ったのですが、実際はとても難しいことでした。要するに、まず始めに後輩たちに言っておきたいこと！「先生方がいくら私たちを変えようとしてくれても、私たちが変わりたいと思わないかぎり、変わらない。一生、受験生にはならない。」いち早く変わりたいと思い、実際に行動し始めた人が勝つのです。

○4月に担任の先生から「受験に成功した者はこの1年を辛かったとは感じないものだ。むしろ充実した1年だったと言う。勉強に対して中途半端な者が辛く感じるし、結果もついてこない」と言われたことが、今すごく理解できる。私の1年間は充実したものでした。

○受験を通しての一番の収穫は、良き仲間たちをもてたことだと思う。私は3年のクラスのみみんなが大好きです。正直言うと、大学に行くよりもあのメンバーでまた学生生活を送りたいと思っているくらいです。辛い時も苦しい時も嬉しい時も悲しい時も一緒に過ごしてきた仲間のことは絶対に忘れないし、これからも仲良くやっていきたい。そういった仲間を受験を通して作りあげてほしい。きっとその頃には楽しい春を迎えられていると思います。

○土学や業後の学習会を利用するべき。「自分でやるからいいや」と思っている人は意外にできない人が多い。とにかく自分を甘やかさない方法を選んでほしいです。それを最後までやりとげるとすごい達成感だよ。自信がつかますよ。

○合格直後にこの体験記を書いています。まず、国立大学の合格は半端なく嬉しい。言葉では説明できないくらいすごいものです。この喜びは私立大の比ではありません。

同時に思うのは、この1年間が順調で何も悩むことなく過ごしていたら、ここまでは嬉しくなかったということです。いろいろな困難を乗り越えてきたからこそ、今の達成感があるということです。また、受験漬けの1年間でもここまでは嬉しくなかったかもしれません。部活動・体育大会や普段の生活など、完璧ではないにしても前向きに楽しんでやりきったことが、今の充実感につながっていると思います。

何よりも忘れてはならないことは、自分一人ではこの1年間を楽しめなかつたろうし、やり切れなかつたということです。自分の周りの人たちが、目に見えるところ見えないところで自分を支え力になってくれたことに本当に感謝しています。

受験前までは、周りの人のありがたさや素直に感謝することの大切さに気付いていませんでした。受験は自分にとって人間的に大きく成長できる貴重な経験でした。

○まず後輩の皆さんに知っておいてもらいたいことは、「成績はサボれば必ず下がり、努力していれば必ずあがる」ということです。当たり前のことですが、これが僕が1年を通じて痛切に感じたことです。つまり「頑張っているのに成績は上がらない」ということはあり得ません。ただ、「自分では頑張っているつもりはないのに、なぜか成績が上がってきた」ということはあり得ます。（この理由は頑張った人にだけに分かります）

成績は上げるのはすごく大変ですが、下がる時は一気です。ちょっと調子が悪いとかで、ほんの少し学習の手を休めている時も、他の受験生は黙々と学習し力をつけているのです。自分勝手な言い分は一切通用しない世界なんだということ覚えておいてください。

第二に伝えたいことは、「受験は全体力」だということです。「全体力」とは、担任の先生の話の中によく出てきた言葉ですが、この意味は体験記を読んでいる春頃では分からないと思います。でも、10~11月頃になると、徐々に気持ちに余裕がなくなってきます。けれども、自分だけではなくクラスの仲間も同じです。その時に自分のことだけを考えるのではなく、クラスの仲間と励まし合うのです。苦しくて余裕がない時もです。受験が近づいてくるにつれ、仲間の大切さが身に染みて感じられます。仲間と一緒に合格を勝ち取るのです。担任の先生の言葉、「クラスの全員が合格した時が自分の受験が終わる時」なのです。

○私の受験生活はとても辛かったです。でも、「受験生は最後の最後まで伸びる」という言葉を信じて毎日勉強しました。この言葉を信じたおかげでセンター試験直前の模試で点数を一気にUPさせることができました。今まで何とか頑張って勉強してきた良かったと思いました。本番でも模試と同じぐらい点数をとることができてなんとか国公立を受験することができました。

私は国公立大学の受験校を決める時に、とても恵まれていたと思っています。それは二次試験の科目が好きな科目だったことです。このおかげでとことん二次の勉強に集中することができました。このとき二次試験がもし違う科目だったら私は落ちていたかもしれません。担任の先生と数え切れないほど重ねた面談で、私のことを先生はよく理解してくれて、私が一番頑張れる受験プランを提案してくれたおかげでした。

最後に、受験が終わったら先生と家族に感謝の気持ちを伝えてください。私は受験は家族と先生と共に戦っていくものだと感じました。家族とは一緒に泣き、そして喜んだりして独りで戦っているんじゃないことを実感させてくれました。家族や先生の支えがあってこそ「合格」を手に入れることができたと思います。嬉しいこと辛いこと色々あると思いますけど、ぜひ頑張って「合格」を自分の手でつかんでください。